

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192100048		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームすつつ		
所在地	北海道寿都郡寿都町字新栄町166番地8		
自己評価作成日	平成30年12月25日	評価結果市町村受理日	平成31年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0192100048-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寿都湾が眼下に見える自然豊かな閑静な環境の中に位置しています。利用者様が住み慣れた地域で楽しみを持ち生活が送れるよう、地域の子供たちとの交流に力を入れています。保育園園児の定期的な来訪で、お遊戯を披露して頂いたり、ハロウィンに仮装した近所の子供たちとのふれあい交流をし、入居者の方に喜ばれています。協力医療機関による定期的な訪問看護を受け、相談、助言を頂き早期受診対応や、24時間連絡できる体制を取り連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームすつつ」は、自然環境に恵まれた寿都町の高台に立地している。共用空間は広々とした造りで、大きな窓に面している食堂から四季の移り変わりを身近に感じることができる。管理者と職員が、利用者と一緒に敬老会やふれあ～寿のクリスマス会などの町内行事に積極的に参加し、地域の方々や馴染みの友人、知人と顔を合わせて交流することでグループホームへの理解も進んでいる。保育園児が来訪して遊戯を披露したり、一緒に折り紙をして交流を楽しんでいる。また、ハロウィンに訪れる地域の子供たちに利用者が飴を渡して触れ合う機会もある。利用者に合わせて献立の調理法を変更したり、季節に応じてウッドデッキで焼き肉や焼き魚などをして気分転換するなど、食事が楽しめるように工夫している。利用者のできる部分を手伝ってもらいながら、「白玉のおしるこ」や「おはぎ」などのおやつも一緒に作っている。現在は利用者の介護度も高くなってきているが、管理者は本人の状況を家族に詳しく伝えて意向を確認し、可能な限りグループホームでの生活を継続できるように職員と共に細やかに対応している。職員は、歌をうたいながら楽しく手足を動かす体操など、毎日の活動を工夫して一人ひとりがいつまでも元気で、穏やかな日々を過ごせるように家庭的で温もりのあるケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理住み慣れた地域で、個々に合わせた生活の支援を理念に基づいて職員間で共有に努めています。	住み慣れた地域の中で、その人らしい生活をゆっくり楽しく継続できるように支援するという理念を掲げている。職員採用時に説明したり、利用者が他の施設に移らなければならない時に再確認し、楽しい生活が継続できるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年他事業所とふれあ～寿祭りを開催しています。保育所園児、ハロウィンに仮装した子供たちの来訪や敬老会、お祭り見学等地域住民の方と交流を図っています。	利用者は、寿都町の敬老会に参加したり共生ホールで開催されているカラオケに出かけることもある。保育園児が来訪して遊戯を披露したり、利用者と一緒に折り紙をして楽しむ機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けての取り組みは、十分と言えない現状にあり、取り組んで行きたいと考えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告等、意見や要望を伺いサービス向上に活かせるよう取り組んでいます。遠方の家族様が殆んどで、議事録や、個別にホーム便りの送付を行っています。	行政や地域役員などの参加を得て、サービス評価や地震対策などを取り上げて開催している。全家族に会議案内と議事録を送付しているが参加が難しいため、今後は普段得られた家族の意見や提案なども会議に活かしていきたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者に入居状況の情報提供や困難事例の相談等改善に向けて助言等頂いています。	管理者は、書類の提出で役場を訪問したり空き室情報などを提供している。地域ケアマネ会議やケア会議に参加して情報交換したり、勉強会に参加してケアや運営に反映させている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人職員研修を実施しています。身体拘束をしないケアを実践しています。安全を守るための行為が拘束に接触していないか都度職員間で話し合いをしています。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備して、内部研修を実施している。ベッド柵や車椅子をテーブルに押し込むなど、身体拘束につながりかねない行為をしないように申し送り確認しながら適切なケアに取り組んでいる。気になる言葉遣いがあればその都度注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回勉強会で不適切なケアがなされていないか、都度職員間で話し合い意識を持ち防止に努めています。		

ふれあいの里グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の自立支援事業や成年後見制度を利用されている方がおり活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や質問事項について分かりやす説明に努めている。日頃より説明等できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ご家族様に状況を伝え、意見、要望を伺っていますが、不足な面もあり要望等話が聞けるよう雰囲気作りに努め貴重な意見を頂けるよう取り組んでいます。	利用者の介護度が高くなっているため、来訪時に本人の身体状況を詳しく伝えて家族の意向を確認しながら、主治医と共に今後の方針について検討することも多くなっている。可能な限り、家族の希望に沿った対応ができるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、業務の中で利用者の状況や業務内容などについて、意見、提案を聞き、改善点を話し合い運営に反映するよう努めています。	介助が必要な方が多くなって来たため、適切な介助方法について職員の意見や提案を反映させている。行事や広報紙担当、発注業務など、職員も係を分担しながら運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数により資格取得のための支援や、個別面談を行い職場環境に反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が役割を持つことで、やりがいや、向上心が持てるよう取り組んでいる。外部研修等、地域的に参加する機会が出来ない現状。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、地域セミナーに参加し、居宅介護支援事業所、診療所、包括支援センター職員と事例検討、事業所の取組み等情報交換を行い連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様、関係機関担当者と一緒に面談し、困りごとや不安なことを聞き安心感を持って利用して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、関係機関の方と本人、家族様に面談し要望、不安なことを汲み取れるよう心掛けて支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の取り組み支援や他サービス内容を説明し、本人、家族様の状況に合わせた支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを職員間で情報共有し、達成感が得られた生活が送れるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、電話等で体調面や様子を伝え、ご家族の要望を伺いながら、毎日のケアに取り入れている。又遠方の方には、来町時外出の機会を持って頂くようお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人が気軽に立ち寄れる雰囲気作りを心掛けています。自宅へ外出、外泊の時間が持てるよう支援しています。	近所に住んでいた方が訪ねて来たり、老人クラブの帰りに立ち寄ってくれる友人もいる。職員と一緒に馴染みの場所をドライブしたり、ふれあ～寿のクリスマス会などで地域の方々と交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや役割を通して利用者同士が助け合いできる関係作りに努めています。		

ふれあいの里グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設にお見舞いや、面会を行っています。必要時ご家族様から相談等に応じられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、言葉や表情などから希望や意向を汲み取るよう努め職員間で話し合い支援を行っている。	会話から思いや意向を読み取ることが難しくなっているが、発語や表情、今までの生活などから把握している。趣味や嗜好などの情報を関わりの中で把握することもあるが記録には残していない。	アセスメントシートの備考欄を活用して趣味や嗜好などを記録に残し、日々の会話や介護計画の見直しに活かすよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に、生活歴、日々の過ごし方など伺ったり、本人と会話の中で馴染んできたことなど職員間で情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々本人の出来る事、出来ない事等職員間で情報交換し、役割を持ってもらうように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い意見交換し計画に反映している。	フェイスシートとアセスメントシートを毎年更新し、サービス項目に沿って達成度と方向性について話し合い、6か月ごとに介護計画を作成している。サービス項目に沿って変化や課題を介護記録に記入し、見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、心身の状態など、本人の言葉を交え記入し職員間で情報共有を図り介護計画の見直しに取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の、言動、行動等変化があった場合はその都度、柔軟にニーズに合わせた対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人の方、地域の老人クラブの方など、入居後も馴染みの関係が継続できるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の協力医療機関へ1回の定期受診対応を実施。体調に変化があれば、治療方針等、主治医、家族様と話し合い対応している。	急変が無ければ、事業所の対応で町内の協力医療機関を定期的に受診している。協力医療機関以外を受診する時は、家族対応を基本としている。受診記録は、個別に記録して情報を共有している。	

ふれあいの里グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理で体調の変化や経過を報告、相談し主治医の指示で受診や対応を行っている。必要時、24時間連絡、相談、受診できる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医師からのお話を家族様と同席し情報を頂いています。入院中も定期的に面会し状態の把握に努め早期退院に向け適宜情報を頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合に係る指針に沿って事業所で出来る対応について説明し同意を得ています。長期的に療養が必要な場合は主治医、家族、事業所間で方針を話し合い他施設等への支援を行っている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、事業所として可能な対応について説明している。医療行為が無ければ家族の意向を確認しながら、主治医の判断の下に可能な限り事業所での生活を支えていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故等に備え、日頃より対処方法を周知徹底し、主治医と連携を密に実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定総合避難訓練を、消防署立会いで併設の他事業所と年2回実施。町内会の方も参加して頂いています。地震、災害に備え、食品、水、ストーブなどの備蓄品を完備している。	年2回、消防署と地域住民の協力の下、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。危険箇所を確認し、地震時の対応について話し合っているが記録にまでは残していない。救急救命訓練の受講期間が空いている職員もいる。	地震時のケア別の個別対応について話し合い、結果を記録に残してマニュアルと一緒に綴るよう期待したい。また、職員の救急救命訓練の受講を計画的に進めるよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適宜振り返り、不適切な言葉使いがないよう周知している。利用者個々に合わせた対応を行い、尊重し接することを心掛けている。	勉強会で不適切なケアを学び、言葉による拘束がないよう話し合っている。個人的な話は他者から離れた場所で聞き、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のしたいこと、思いを表出しやすいよう声掛けし自己決定ができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、自分の好きなことを行い過ぎて頂けるよう、希望に沿った支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺い、好みの色の洋服を選んで頂いています。		

ふれあいの里グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	風のごはん屋や、共生ホールウッドデッキを利用し、雰囲気を変えて食事を楽しんで頂いている。利用者全員が作れる昔馴染みのおやつ作りを楽しんで頂いています。	本部の献立を見て、利用者が好む調理方法に変えることもある。ウッドデッキで焼き肉や焼き魚を楽しみ、冬期には鍋物を多くしている。本人の誕生日には手づくりケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量、水分量を個人別に記入している。適宜口腔、嚥下状態に合わせた形状で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、口腔清拭、義歯洗浄等出来ない部分の介助を一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄回数を確認し、プライバシーに配慮した声掛けや時間で誘導しトイレでの排泄を行っている。	全員の排泄を記録し、立位の動作に働きかけて日中はトイレに誘導している。自力でできる方をそれとなく見守ったり、職員2人介助など利用者の状態に沿って対応している。夜間におむつ交換で対応する場合も日中はリハビリパンツに替えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行い、水分、乳製品の提供や、体操等で身体を動かし予防に努めている。困難な場合は内服薬で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体状況を確認し、午前、午後で入浴しています。入りたくない場面では、個々に合わせ無理せず時間を置いて、声掛けの工夫をしている。	入浴時間や順番の希望を聞き、週2回の入浴を支援している。身体的な状態で、同法人小規模多機能サービス終了後に浴室を借り、シャワーキャリーを使用して入浴している方もいる。全員が湯船に浸かり、職員と昔話をして気持ちよく入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、音、明かりに配慮し安眠して頂けるよう気を付けています。昼寝など個々に合わせ自由に取り付けて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルを使用し薬の用法を把握できている。薬の副作用等気をつけることは、都度職員に伝え周知し、誤薬を防ぐために、個別にケースに入れ対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人ひとり出来る事を活かし、役割を持って頂いている。又歌や、ゲーム等で楽しみや気分転換が持てるよう取り組んでいる。		

ふれあいの里グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される方は、馴染みの美容室や自宅へ外出、外泊をされています。季節により天気の良い日、海、畑の様子を見ながら散歩したり、定期的に行事でドライブや外食を楽しんでいます。	建物前の駐車場を散歩し、畑の野菜の成長を眺めて外気浴をしている。ドライブで桜の花見や紅葉見学をして季節を感じている。大谷会館や黒松内方面で外食を楽しむ機会もある。町内の神社祭りや文化祭を見学し、冬期も受診などで外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より承諾を頂き、金銭はホームで立替払の対応しています。外出時本人の希望があれば、支払いを一緒にして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話でお話しをして頂いたり楽しみにされています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングルームの窓が大きく日々四季を感じて頂いています。ホーム内が広く、音が響きやすい為、不快にならないよう気を付けている。季節ごとの飾り付けをし、落ち着いて過ごせる空間作りに努めている。	共用空間は広々としており、事務所カウンターから全体的な見守りが可能な造りになっている。リビングにテレビを囲むようにゆったりとしたソファを配置して団欒が楽しめる。動物の写真や縫いぐるみ、保育園児からの折り紙のプレゼントも飾られている。加湿器や洗濯物で湿度を調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビのあるリビングにソファを配置し、気の合った同士、居心地良く過ごせるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様の馴染みのある物を持参して頂き、写真を貼ったり落ち着いて過ごしていただけるよう工夫をしている。	居室に造りつけのクローゼットと温湿度計を備え、馴染みの家具類やテレビなどが持ち込まれている。ラジカセを傍に置いて好きな歌を聞いたり、馴染んだ寝具や洋服に包まれて安心して過ごせる室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋の場所が分かるように名前や、飾り付けをし安心できるよう工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームすつつ

作成日：平成 31年 3月 22日

市町村受理日：平成 31年 3月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	アセスメントシートの備考欄を活用して趣味や嗜好などを記録に残し、日々の会話や介護計画の見直しに活かすように期待したい。	現在の利用者の小さな変化等記録に詳細に記入し情報を共有する。	ミーティングで、利用者のできること、できなくなったことを話し合い基本シートや記録に記載し職員間で情報を共有し、本人の意向に沿うように努める。	6ヶ月
2	35	地震時のケア別の個別対応について話し合い、結果を記録に残してマニュアルと一緒に保管するよう期待したい。また、職員の救急救命訓練の受講を計画的に進めるよう期待したい。	利用者別対応を話し合い記録に記載する。次回避難訓練時より計画的に実施する。	利用者別対応を話し合い記録に記載する。次回避難訓練時より、入職後救急救命を受けてない職員や、3年以上受けていない職員を対象に計画的に実施する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。